

日本学術会議・経済学委員会
第24期・第3回議事要旨

開催日時： 2018年10月4日

場所： 日本学術会議事務局 6-B会議室（6階）

出席者（敬称略）：北村（委員長）、溝端（副委員長）、永瀬（幹事）、黒崎（幹事）、井伊、
大野（出席者数 6名）

（1）前回議事録要旨の確認

（2）分科会の活動報告

委員長より、意思の表出、提言まで出す場合はスケジュールを考えて早めに出すよう^よにと発言があった。

進捗状況が報告された。

数量的経済・政策分析分科会 統計の二次利用について

以下の分科会は運営役が報告された

ワーク・ライフ・バランス研究分科会（委員長大石、副委員長永瀬）

提言の可能性

持続的発展のための制度設計分科会（委員長松島 副委員長岡崎）提言の可能性

国際開発研究分科会（委員長黒崎 副委員長桜井） 報告を予定

（3）アスタープランへの申請について

23期は京都大学のゲノム研究におけるゲノム情報と健康診断データ、および社会指標とを合わせ、その上で医療費に諸要因がどうかかわるかをテーマとし、さらに複数大学のパネル調査の拡充と継続をあわせ、マスタープランとして提出した。これはマスタープラン候補とはなったが採択に至らなかった。

今期も同様のテーマで申請を考える。また第一部で本田由紀会員が、大学での教育とその後の収入や職業選択についてのデータを、大学と協力し、日本学術会議の後援も得て行うという提案（科研費基盤Aに基づくもの）があった。大学教育とその後の収入への影響について、大学偏差値や大学の特徴を考慮してサンプリングをした上で、大学内での成績や大学での活動とその後の職業選択、収入、健康状態などをパネルで把握するような偏りのないデータは大学横断的にはないの^よで、こうしたデータ収集も1つの可能性ではないかという意見も出た。

(4) 経済学関連活動との連携について

日本経済学会、Econometric Society 関連の理事を次回 4 月の委員会では、特別連携会員として推薦し、経済委員会への参加をお願いする。委員候補については 1 月頃までに検討する。

(5) その他

人文社会科学研究者男女共同参画調査（第 1 回）の経済学分野の回答が低いため回収への声かけの依頼があった。